

第14回 生産マイスター検定 3級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石山 真実

■ 第14回検定の結果を振り返る

今回の結果については、第13回に比べて、平均点は 63.4 点→63.9、合格率は 58.4%→57.6%とほぼ同等でした。

ウイークポイントとしては、以下のような点が見られました。

「役割」のカテゴリの問題において、「ムダ=実績-標準」、「ムダ=目標-標準」という2つの「ムダ」を理解していない方が多かったようです。これは現場リーダーとして必ず理解すべき内容です。「ムダ」の改善には2つの概念があり、1つは標準をきちんと遵守する「維持管理」、もう1つは標準をさらにレベルアップ（目標に近づける）する「改善管理」です。この2つを分けて意識し、「ムダ」の改善を進めることが重要です。

「品質」のカテゴリの問題では、『顕在不良と潜在不良』『不良ゼロへの手順』『新QC7つ道具』についての理解が低かったようです。特に『新QC7つ道具』は品質改善において非常にわかりやすく役に立つ手法です。こちらも現場リーダーとしては、知っておくべき必須の内容になります。

「コスト」のカテゴリの問題では、『製造原価構造の計算』『ワークサンプリングの計算』、「納期・生産管理」カテゴリの問題では『製作手配』についての理解が低かったようです。毎日の生産活動で使われる計算ではないので、なかなか理解がしにくい内容と思いますが、今より少しでも高いレベルの現場を目指すために必要な内容です。ぜひ、その計算式の意味を理解するようにしましょう。計算式の意味を理解すれば、なぜこのことを学ぶ必要があるのかも納得がいくものと思います。

現場を改善し、リーダーシップを発揮しながらメンバーを引っ張っていくためには、これらの知識は不可欠なものです。是非、再度テキストを確認いただき、自身のものにして下さい。

■現場の活動から

今回の検定問題で理解の低かった項目に「ムダ=実績-標準」というものがありました。これは、逆に言うと『「ムダ」を無くすためには標準を遵守する』ということになります。標準を遵守する仕組みの一つに、「標準時間を決めて、その時間を守る」という方法があります。

この話をすると、よく現場の方やリーダーから言われるのは、「そんな速い時間では作業ができるはずがない」、「無理に標準時間を守らせるとするのは労働強化ではないのか」、「標準時間を守ろうとして作業者があわてて、かえって不良が増えてしまう」というものです。おそらく多くの方が

(一社) 人材開発協会

のように思うでしょう。

実は、標準時間を守るということは、標準作業を守るということで、時間を守る努力をするということではないのです。この点が誤解や反発をまねくきっかけになっている工場を良く見かけます。

標準作業を十分に練習して、それが簡単にできるようになることが目的で、そのことで黙って時間は守れるようになるわけです。つまり標準時間を守るということは、標準作業を十分に練習して、それが簡単にできるようになることを目指していますので、「そんな早い時間では作業ができるはずがない」、「無理に標準時間を守らせるというのは労働強化ではないのか」、「標準時間を守ろうとして作業者があわてて、かえって不良が増えてしまう」ということはなく、不良も着実に減っていくものなのです。

多くの工場でこのことがきちんと理解されずに、標準時間に対する達成度だけが管理されています。今一度、標準時間を遵守する意味を、考えていただくことも必要かもしれません。

以上